

「日本学術会議の最近の動向について」

- 1：今後の改革方針に関して
（12月の臨時総会の議論について） 資料 1
- 2：日本の研究力強化委員会のその後の活動と、
新たな小委員会設定について 資料 2
- 3：未来の学術構想について

報告の内容

- ・ 会員任命問題に関する経緯
- ・ 日本学術会議の在り方に関する政府の検討への対応
- ・ 内閣府からの審議依頼への対応
- ・ 主な国際活動
- ・ 幹事会声明・会長談話・会長メッセージ一覧
- ・ 記者会見一覧

任命問題に取り組む際の基本的考え方（追加）（令和4年8月総会）

- ・ 任命されなかった6名の方々を欠員を補充する補欠の候補者として推薦することはないのかという、記者会見でたびたび出された質問には、以下の考え方で対応
 - ① 令和2年10月に任命されなかった6人は、3年ごとに行われる半数改選に際して会員候補者として推薦したものであり、任期の途中で生じた定年等による欠員を補充するための候補者として推薦することは考えていない
 - ② 第25期の補欠の選考はあくまで第25期の会員として任命された方々の定年等による欠員の補充を行うものであり、そのための規定も整備している。したがって、そもそも任命されなかった方々をそれと同列に扱うことは制度的にできないというのが私たちの考え方である。

内閣府からの審議依頼への対応

- 3月23日 内閣府大臣官房総合政策推進室長及び内閣府科学技術・イノベーション推進事務局統括官から下記2件について審議依頼

- ①研究力強化－特に大学等における研究環境改善の視点から－
- ②研究DXの推進－特にオープンサイエンス、データ利活用推進の視点から－

- 対応状況

- ①について

我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会（委員長：山口周会員）

→回答「研究力強化－特に大学等における研究環境改善の視点から－に関する審議について」を取りまとめ（令和4年8月5日）

- ②について

オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会

（委員長：喜連川優連携会員）

→本年12月中の回答の取りまとめに向けて議論

日本学術会議の在り方に関する政府の検討への対応

- 1月21日 日本学術会議の在り方に関する政策討議取りまとめ
※日本学術会議会長はその職責上、総合科学技術・イノベーション会議の構成員ですが、本件議論においては日本学術会議の現状に関する資料や見解の説明者として参加したにとどまり、取りまとめの作成には関与していません
- 1月21日 小林内閣府特命担当大臣（科学技術政策）との面談
小林大臣からは、あらかじめ決め打ちすることなく丁寧に検討を進め、できれば夏までには政府としての方針を示したいこと、日本学術会議とコミュニケーションをとりながら、引き続き未来志向で取り組んでいきたいことなどのコメント
- 2月1日 会長メッセージ（総合科学技術・イノベーション会議「日本学術会議の在り方に関する政策討議取りまとめ」（令和4年1月21日）について）の発出
- 9月6日 山際内閣府特命担当大臣（経済財政政策）との面談
- 10月21日 山際大臣に対して、政府の方針の早期公表についてお願いする文書を送付
- 11月10日 後藤内閣府特命担当大臣（経済財政政策）との面談、政府の方針の早期公表を要請
- 11月28日 日本学術会議会長談話「日本学術会議法改正に関わる今般の報道について」の公表

日本学術会議の在り方についての方針

令和 4 年 12 月 6 日
内閣府

記

日本学術会議の在り方については、「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」（令和 3 年 4 月 22 日日本学術会議）、「日本学術会議の在り方に関する政策討議取りまとめ」（令和 4 年 1 月 21 日総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会）等を踏まえ、日本学術会議が国民から理解され信頼される存在であり続けるためにはどのような役割・機能が発揮されるべきかという観点から検討を進めてきた。

グローバル社会が直面している地球規模の課題や新興技術と社会との関係に関する課題など、政策立案に科学的な知見を取り入れていく必要性はこれまで以上に高まってきており、政策判断を担う政府等に対して科学的知見を提供することが期待されている日本学術会議には、政府等と問題意識や時間軸等を共有しつつ、中長期的・俯瞰的分野横断的な課題に関する質の高い科学的助言を適時適切に発出することが求められている。

また、世界が直面する重要課題等に政府等と日本学術会議が連携を深めながら取り組んでいくことが、「科学技術立国」の実現や我が国の国際社会におけるプレゼンスの向上等のためには不可欠である。

このため、政府としても、政府等と問題意識や時間軸等を共有しつつ、中長期的・俯瞰的分野横断的な課題に関する時宜を得た質の高い科学的助言を行う機能等を抜本的に強化することとし、活動や運営の徹底した透明化・ガバナンス機能の迅速かつ徹底的な強化を図るため、国の機関として存置した上で、必要な措置を講じ、改革を加速するべきという結論に達した。

今後、本方針に基づき、下記の点を中心に日本学術会議の意見も聴きつつ、法制化に向けて具体的措置の検討、所要の作業等を進め、日本学術会議会員の任期も踏まえ、できるだけ早期に関連法案の国会提出を目指す。

学術及び科学技術力は我が国の国力の源泉であり、その世界最高水準への向上は、国民の幸福、国家及び人類の発展のためにも不可欠な基盤として、政府及び日本学術会議が協働して実現を果たしていくことが必要である。

日本学術会議においても、新たな組織に生まれかわる覚悟で抜本的な改革を断行することが必要である。

【科学的助言等】

- 1 政府等と問題意識や時間軸等を共有しつつ、中長期的・俯瞰的分野横断的な活動を適切に推進するとともに、国民からの理解と支持の獲得や社会との対話の促進に資するため、「期」を超えた基本的な活動方針を策定すべきこととする。重点的に取り組む事項に加え、会員等に求める資質等も明らかにする。併せて、政府等と日本学術会議との連携の強化・促進に必要な取組等の強化を図る。
- 2 科学的助言については、科学的助言等対応委員会等の機能を強化し、位置づけを明確化する。すべての学問分野に開かれた日本学術会議の特徴をいかしつつ、政府等との問題意識・時間軸等の共有、レビュー、適時適切な情報発信、フォローアップ等が、高い透明性・客観性の下で適切かつ確実に行われるよう措置する。
- 3 委員会・分科会等の在り方についての見直しを進め、多様な視点や俯瞰的な視野の確保、横断的な連携の促進を図るとともに、重複の有無や機能的な運用にも留意しつつ、設置基準及び合理的な目安等を設定・公開する。

【会員等の選考・任命】

- 4 新たな学問分野・融合分野からの積極的な登用、分野・活動領域・年齢等のバランスの確保等に努めるとともに、会員等には、個別分野の深い学識に加え、国際的な業績・評価、分野横断的な見識、異分野間の対話能力等が求められていることも明らかにする必要がある。日本学術会議においては、これらも踏まえ、選考に関する方針を策定する。
- 5 会員等以外による推薦などの第三者の参画など、高い透明性の下で厳格な選考プロセスが運用されるよう改革を進めるとともに、国の機関であることも踏まえ、選考・推薦及び内閣総理大臣による任命が適正かつ円滑に行われるよう必要な措置を講じる。

【活動の評価・検証等】

- 6 日本学術会議は独立して職務を行うことから、他の行政機関以上の徹底した透明性が求められる。外部評価対応委員会の機能を強化し、構成及び権限、主要な評価プロセスを明確化すること等により、活動及び運営についての評価・検証が透明かつ厳格に行われることを担保する。

【財政基盤の充実】

- 7 活動及び運営、支出などについて不断の見直しを行うことを前提に、日本学術会議に関する経費は、引き続き国庫の負担とする。政府等と日本学術会議の連携の強化・促進に必要な取組等が現状のリソースで十分に行えないのであれば、所要の追加的措置を検討する。

【改革のフォローアップ】

- 8 関連法の施行後 3 年及び 6 年を目途として、本方針に基づく日本学術会議の改革の進捗状況、活動や運営の状況等を勘案しつつ、より良い機能発揮のための設置形態及び組織体制の在り方等について検討を加え、必要があると認められるときは、国とは別の法人格を有する独立した組織とすることも含め、最適の設置形態となるよう所要の措置を講ずる。その際、会長・会員等の位置づけ、会員数、会員・連携会員の種別、任期等についても、検討することとする。

また、国とは別の法人格を有する独立した組織とする場合には、財政基盤の在り方等についても併せて検討し、新組織が必要な活動を行いうるよう配慮するものとする。

令和4年 12 月 15 日
日本学術会議会長 梶田隆章

内閣府「日本学術会議の在り方についての方針」

(令和4年 12 月 6 日) について再考を求めます

【政府方針の全体について】

- ・ 口頭説明では、「第4部」の創設や選考過程における第三者委員会のあり方への言及がありました。このように部の構成や会員の選考・任命プロセスをはじめとして、日本学術会議の組織の根幹に関わる事項について法改正が検討されていること、しかも 2023 年 1 月に召集される通常国会への法案提出が予定されていることが明言されました。国会召集まで残された時間は僅かであるにもかかわらず、改正法案の具体的内容はいまだ明確に説明されておらず、口頭説明でも「今後の検討課題」とされた点がきわめて多くありました。もとより、学術会議との議論は今回の総会で始まったばかりであり、広く社会からの意見聴取もなされておられません。そうしたなかで、次期通常国会に法案を提出するのはあまりに拙速であるとの強い懸念を抱かざるをえません。
- ・ 仮に法改正がなされた場合、日本学術会議の実際の運営に際しては、改正法を施行する内閣府令や日本学術会議会則等の見直しが必要になるだろうと考えられますが、本会議第 25 期は 2023 年(令和 5 年)9 月末までであり、任期終了までの時間はきわめて限られています。
- ・ このことについて 12 月 8 日の総会での口頭説明では、次の期の選考は改正される法に基づいて新たなルールで行うことを検討しており、その場合、前例を参照して第 25 期会員の任期延長を行う可能性があるとの説明がなされました。現在の会員は、6 年の任期を前提に就任を受諾して任命されたのであり、政府の判断で一方的に任期を延長することはご都合主義的との非難を免れません。延長される期間に 70 歳の定年を迎える会員もあり、また、すべての会員がこうした任期延長を容認するかどうか、それによる学術会議の運営への影響について強い懸念を抱きます。
- ・ 仮に法改正が行われる場合には、施行日は、たとえば科学技術イノベーション基本法改正時にそうであったように、法案成立翌年の4月1日以降とし、改正法の施行のための政令などの検討・準備を慎重に行い、新たな期の体制のもとで改正法に基づく上述のような作業を進めるのが順当だと考えます。
- ・ 以下、個別に懸念される諸点を示しますが、全体として、日本学術会議法第三条の規定により日本学術会議が独立して職務を行ううえで深刻な影響を及ぼすものであることに強い懸念を抱きます。

- 1) そもそも、すでに学術会議が独自に改革を進めているもとの、法改正を必要とする理由(立法事実)が示されていない点
- 2) 会員選考のルールや過程への第三者委員会の関与が提起されており、学術会議の自律的かつ独立した会員選考への介入のおそれのある点
- 3) また、第三者委員会による会員選考への関与は、任命拒否の正統化につながりかねない点
- 4) 現在、説明責任を果たしつつ厳正に行うことを旨とした新たな方式により会員選考が進められているにもかかわらず、改正法による会員選考を行うこととされ、そのために現会員の任期調整が提示されている点
- 5) 現行の三部制に代えて四部制が唐突に提起されたが、これは学問の体系に即した内発的論理によらない政治的・行政的判断による組織編成の提案であり、学術会議の独立性が侵害されるおそれが多分にあることを示した点
- 6) 政府等との協力の必要性は重要な事項であるが、同時に、学術には政治や経済とは異なる固有の論理があり、「政府等と問題意識や時間軸等を共有」できない場合があることが考慮されていない点

資料 2：我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会

内閣府からの審議依頼への対応

➤ 3月23日 内閣府大臣官房総合政策推進室長及び内閣府科学技術・イノベーション推進事務局統括官から下記2件について審議依頼

- ①研究力強化－特に大学等における研究環境改善の視点から－
- ②研究DXの推進－特にオープンサイエンス、データ利活用推進の視点から－

➤ 対応状況

①について

我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会（委員長：山口周会員）

→回答「研究力強化－特に大学等における研究環境改善の視点から－に関する審議について」を取りまとめ（令和4年8月5日）

②について

オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会

（委員長：喜連川優連携会員）

→本年12月中の回答の取りまとめに向けて議論

我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会・学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会合同分科会の設置について（案）

分科会等名：少子化時代の持続可能な学術環境・エコシステムに関する分科会

今後の学術システムの在り方を審議するために、関連する上記2つの課題別委員会が協力して俯瞰的な検討を行うことが有効と考えられるため、新たな学術環境と学術エコシステムの在り方に関する審議を目的とする合同分科会を設置する。

審議事項	1. 学術活動を支える学術環境と学術エコシステムの現状とその将来像に関する審議 2. 将来の学術コミュニティ、学術活動の成果発信
	等の学術環境の在り方に関する審議に関すること
設置期間	令和5年2月22日～令和5年9月30日

2023年3月23日
拡大物性委員会

物性研究将来計画小委員会 報告

遠山 貴巳
(東理大理)

物性委員会主催「物性研究の中長期研究戦略について」

日時：10月8日（土）13時～17時

場所：Zoom開催

開催趣旨：

日本学術会議が公募している「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」について、主として物性関係の提案者が互いに内容を発表し、情報交換するとともに物性コミュニティーからの意見を反映することで、よりよい提案策定の機会となる場を提供することを目的とする。

プログラム

セッション1

座長: 遠山 貴巳(東京理科大学)

13:00~13:05 堀田 貴嗣(物性委員会委員長・東京都立大学)

はじめに

13:05~13:25 加倉井 和久(中性子科学会・CROSS)

中性子科学の中長期研究戦略 ―骨子―

13:25~13:45 久保 謙哉(国際基督教大学教養学部)

ミュオン科学の将来

13:45~14:05 下村 浩一郎(KEK物構研)

MLF第2ターゲットステーション: 中性子・ミュオン科学の新たな展開

14:05~14:25 和田 健(KEK物構研)

大強度陽電子源による物性・基礎科学研究の新展開

14:25~14:45 小杉 信博(KEK物構研)

量子ビーム施設連携マルチプローブ学術研究基盤の構想

休憩(10分)

セッション2

座長：堀田 貴嗣（東京都立大学）

14:55～15:15 松田 康弘（東京大学物性研究所）

強磁場コラボラトリー：統合された次世代全日本強磁場施設の展開

15:15～15:35 坂本 隆一（核融合科学研究所）

核融合研で検討中の構想について

15:35～15:55 兒玉 了祐（大阪大学レーザー科学研究所）

パワーレーザーによる物質科学への貢献

15:55～16:15 田中 雅明（東京大学大学院工学系研究科）

スピントロニクス学術研究基盤と連携ネットワーク（Spin-RNJ）拠点

16:15～16:35 森 初果（東京大学物性研究所）

「物性科学連携研究体」における中長期研究戦略

16:35～16:55 **ディスカッション**

16:55～17:00 遠山 貴巳（物性研究将来計画小委員会委員長・東京理科大学）

おわりに

「物性研究の中長期研究戦略について」への感想

- 従来のマスタープランとの違いがよく判らない状況だったので、学術会議の意図もわかりよい情報交換の場となった。
- キーワードとして物質科学、物性科学という言葉が出てきた。それに関連して、研究戦略をたてるとどうしても出口を見据えて応用指向となってしまうが、他分野に影響を与える基礎科学としての物性科学という観点も忘れてはいけない。
- 20～30年後の物質科学の新しい手法となる概念を創出するために物性科学が取り組むような問題設定が必要では。

日本学術会議物理学委員会主催シンポ 「未来の学術振興構想」 ―物理学にできること―

10月29日(土) 13時-18時30分

東京大学小柴ホール

<https://conference-indico.kek.jp/event/190/>

世話人 物理学委員会有志：野尻美保子(KEK), 腰原伸也(東工大)
山崎典子(JAXA), 田村裕和(東北大)

共催:

日本物理学会, 日本天文学会, 宇宙線研究者会議,
宇宙電波懇談会, 核物理懇談会, 高エネルギー宇宙物理連絡会、
高エネルギー物理学研究者会議, 光学赤外線天文連絡会、
太陽研究者連絡会、**物性グループ・物性委員会**、プラズマ・核融合学会

宇宙・天文、素粒子・原子核、一般物理、物性
の各分野の提案の紹介と意見交換

趣旨説明	Prof. Mihoko NOJIRI
12:50 - 13:00	
素粒子原子核分野の計画について	祥仁 浅井
13:00 - 13:10	
素粒子分野からの提案（5計画）	温子 市川
13:10 - 13:35	
原子核分野からの提案（4計画）	貴裕 川畑
13:35 - 14:00	
天文学・宇宙物理学分野における大型将来計画の策定	正彦 林
14:10 - 14:20	
SKA1, ngVLAを中心とした電波分野の推薦計画	健太 藤沢
14:20 - 14:30	
TMTを中心とした光学赤外線分野の推薦計画	正己 大内
14:30 - 14:40	
Solar-Cを中心とした太陽分野の推薦計画	晋亮 今田
14:40 - 14:50	
Athena, FORCEを中心としたX線分野の推薦計画	徹 玉川
14:50 - 15:00	
カムランド2, IceCube-Gen2, 現行計画を中心とした宇宙線分野の推薦計画	宏康 田島
15:00 - 15:10	

キーワード:
宇宙の起源・進化
物質の起源

物性物理学・一般物理学分野における中長期研究戦略について	初果 森
15:20 - 15:25	
量子ビーム関連の将来ビジョンのまとめ	信博 小杉
15:25 - 15:35	
中性子科学会における中長期戦略の検討状況	和久 加倉井
15:35 - 15:40	
中間子科学会における中長期戦略の検討状況	謙哉 久保
15:40 - 15:45	
日本陽電子科学会における中長期戦略の検討状況	真紀 藤浪
15:45 - 15:50	
未踏強磁場科学による物質材料研究の飛躍	康博 松田
15:50 - 16:00	
パワーレーザーによる高エネルギー密度科学国際プラットフォーム	了祐 兒玉
16:00 - 16:10	
物性科学連携研究体の中長期研究戦略について	初果 森
16:10 - 16:20	
プラズマ物理の学際的展開	善章 吉田
16:20 - 16:30	

キーワード：
物質科学
多様性
創発性
量子科学